

37 山中湖より 奥村土牛 一面

水彩・紙 昭和五十三年（一九七八）  
本紙六一・三×八五・〇

奥村土牛（一八八九〜一九九〇）は、第六十七回院展（昭和五十七年）出品作「富士宮の富士」から絶筆となった第七十五回院展（平成二年）出品の「平成の富士」まで、晩年にかけて熱心に富士を描いたことが知られている。中でも、昭和五十二年に宮内庁より制作依頼を受けて翌年四月に完成し宮殿に納められた「富士」の制作にあたっては、富士の写生を繰り返し構想を練ったという。「五十三年二月 山中湖」と記されている本図もこの時の写生図の一つと考えられる。その翌年に土牛は、富士と牡丹の写生図を香淳皇后へ献上したという（塩出英雄「新宮殿の富士の絵」『三彩』四三一、一九八三年）。本図は香淳皇后の御遺品であり、この時献上されたものである可能性もある。一面に白く雪をかぶった富士の穏やかな姿が淡い彩色で描き出されている。写生をすることは土牛にとっては心の中に対象を写す行為であり、実際に描き出されたものは土牛の「胸中の富士」であったと言えよう。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

富士 ―山を写し、山に想う―

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 46

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成二十年三月二十二日発行

© 2008 The Museum of the Imperial Collections